

成果報告書（市区町村用）

文化活動の地域移行に向けた実証事業

自治体名・担当部署		中間市教育委員会学校指導課	
所在地		福岡県中間市	運営形態 地域連携（合同部活動）
本事業に関する市区町村としての取組・考え		生徒にとって望ましい部活動（吹奏楽部）と学校の働き方改革の実現に向けて、合同部活動の実践研究を実施し、持続可能な部活動（地域クラブ活動）とその指導体制を構築する。	
運営主体		中間市地域部活動推進協議会	
事業目標		本年度は「なかまジュニア吹奏楽クラブ（以下、NJBC）」を立ち上げ、希望が丘高等学校の協力を得ながら、1月の合同演奏会（プラスフェスタ）に向けて約10回の練習を行う。次年度は、新体制後（現2年生引退後）に中間市立中間東中学校を拠点としたNJBCでの活動を継続して実施するための体制等を構築する。	
団体・組織等の連携		<p>少子化による部員減少による弊害への対応や学校の働き方改革に資するため、合同部活動の実践研究を実施し、持続可能な部活動と指導体制を構築する。</p> <p>A中学校(拠点校) → B中学校 → C中学校 → D中学校 → 地域の指導者 → 練習施設【E高等学校等】</p> <p>主として休日や長期休業中に合同練習等を行う</p> <p>消耗品等 → MUSIC → 運搬等 → 演奏会場等</p> <p>中間市地域部活動推進協議会（実践研究の支援・助言・事務処理等） ↔ 福岡県教育委員会</p>	
運営・協議会等スケジュール		第1回 5月 2日（火）【1年間の活動についての趣旨・説明】 第2回 8月 23日（水）【1学期の振り返り及び2学期に向けての打合せ】 第3回 12月 25日（月）【2学期の振り返り及びプラスフェスタに向けての打合せ】 第4回 2月 19日（月）【プラスフェスタの振り返り及び1年間の総括】	
活動種別		吹奏楽	
活動スケジュール	基本活動日	原則として月1回（9：00～12：00）	
	年間	5月 第1回中間市地域部活動推進協議会、練習① 6月 練習② 7月 練習③ 8月 第2回中間市地域部活動推進協議会、練習④ 9月 練習⑤ 10月 練習⑥ 11月 練習⑦⑧ 12月 第3回中間市地域部活動推進協議会、練習⑨⑩ 1月 練習⑪⑫⑬、プラスフェスタ 2月 第4回中間市地域部活動推進協議会	

活動場所		希望が丘高等学校、なかまハーモニーホール
移動手段	生徒	徒歩、自転車、保護者による送迎
	楽器等用具	顧問教師による楽器運搬
参加者	学校名、人数等	中間市立中間中学校（17名）、中間市立中間北中学校（27名）、中間市立中間東中学校（19名）、中間市立中間南中学校（21名） 合計 84名
	募集方法	希望生徒
指導者	属性、人数等	希望が丘高等学校 吹奏楽部 顧問3名
	募集方法	地域指導者代表による連絡・調整により指導者の人員を確保
活動費用	指導者謝金等	指導者謝金1,600円/1時間、交通費（市外在住）1,800円（往復） 事務作業費1,600円/1時間
	その他	練習に必要な物品の購入
活動財源	会費等	現在は保護者による負担経費は無いが、来年度以降は徴収予定。
	その他	中間市より楽器の補修に係る経費として約40万円を計上した。（中間報告時では25万円）
保険加入等		「スポーツ安全保険」
ヒアリング、アンケート等実施 ※集計結果等があれば別紙で提出ください		別紙にて提出

○本年度の取組み状況の概要

ア:関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

- ・ Google classroom機能を活用し、指導者及び各学校の顧問が共通確認を行うことができるようにしている。

イ:指導者の質の保障・量の確保

- ・ 原則、希望が丘高等学校吹奏楽部顧問の3名で指導を行っているが、より専門的な指導が必要な場合は指導者の紹介等により講師の確保を行っている。

ウ:関係団体・分野との連携強化

- ・ 希望が丘高等学校の協力を得ながら市内4中学校の合同部活動での連携を図ることができた。

エ:面的・広域的な取組

- ・ 特になし

オ:内容の充実

- ・ パートごとに指導者を確保し、生徒は専門的な指導を受けることができた。
- ・ 固定化された練習場と移動困難な大型楽器の確保のため、希望が丘高等学校で合同での合奏練習をすることができた。
- ・ ICTを活用して、各校の顧問での連携を図ることができた。
- ・ 楽曲を絞って1年間丁寧な練習を行ったため、生徒にとっては技術向上を図る良い契機となった。

カ:参加費用負担の支援等

- ・ 中間市より楽器の補修に係る経費として約40万円を計上した。

キ:活動場所等の確保

- ・ 希望が丘高等学校、なかまハーモニーホールを使用した。
- ・ ホールの予約等は、事務局が行った。

○地域クラブ活動の概要

- ・ 部活動は生徒にとって教育的意義が高い活動であり、現状の部活動に生徒や保護者の一定数は満足しているものの、生徒数の減少、教職員の負担など多くの課題があり、本市においても持続可能な状態にあるとはいえない状態である。本市には4校の吹奏楽部があり、過去には、吹奏楽コンクール等において、全国大会や九州大会に出場するなどの成績も収めていた。しかし、近年は、生徒数の減少とともに吹奏楽部員の数も減り、現在では、1校あたり約10～25名程度で、細々と活動する状況となり、これまでの大規模な演奏やイベント等への出演が困難になっている。そういった中、希望が丘高等学校の協力を得ながら本年度は「なかまジュニア吹奏楽クラブ(以下、NJBC)」を立ち上げ、1月のプラスフェスタに向けて約10回の練習を行った。

○本事業による成果

【生徒の視点から】

・ 事業開始当初は、不安等もあったが、練習回数を重ねていくうちに、大人数での活動や普段できない練習等を経験できたり、それによる達成感・充実感等を味わったりすることができた。このことから、今後、地域移行していくために不可欠である生徒の気持ちを踏まえた地域移行の素地づくりができたと思う。

<生徒の感想より>

- ・ はじめて他校の生徒と一緒に演奏して、自分の学校でやる時よりも楽しくできたとし、上達も一人でする時よりも早かったからまたやりたい。
- ・ 最初は知らない人ばかりで不安だったけど、先輩たちや他校の仲間が優しく教えてくれたので、落ち着いて練習することができた。また一緒に演奏できる機会があったらまた大会等のために教えてもらいたい。

【保護者の視点から】

・ 生徒同様に、保護者も事業開始当初は、運営等に不安等もあったが、練習回数を重ねていくうちに、充実した子どもの表情や感想を目の当たりし、安心感をもってもらうことができた。また、合同演奏会本番の演奏を聴き、予想以上の出来栄に感動している姿もあった。このことから、地域移行に対する保護者の理解もおおむね得られたと考える。

<保護者の感想より>

- ・ はじめは、他校への送迎等で大変だと思ったけど、子どもの頑張っている姿や充実した表情を見ると、今後もこの活動が続けていってもいいかなと思った。
- ・ 普段は、我が子の学校の演奏しか聴いたことがなかったが、合同演奏を聴いて本当に感動した。やはり、吹奏楽ならではの人数で活動させてあげたいと思った。

【教職員等の視点から(働き方改革)】

・ 合同練習における教員の業務については極力、引率のみを行い、技術指導等は地域指導者等に任せることができた。

・ 専門的な技術指導を受ける機会ができたことで、平日の部活動指導の見通しをもつことができ、余裕をもって日々の指導を行うことができた。

<教職員の感想より>

- ・ 専門家による指導の機会をいただけたことで、自分たち(教員)も大変勉強になった。
- ・ 合同練習で次回までの課題を与えてもらえるので、平日の練習計画が立てやすくなった。
- ・ 何より、生徒が楽しそうに活動している姿が見られてよかった。

○児童・生徒への指導に関する工夫

※顧問と地域指導員の連携や指導方法の共通認識に関する工夫も含めて記入。

- ・ 指導者及び各学校の顧問、教育委員会が共通確認できるようにするために、Google classroomを活用した。また、Google classroomを活用することで、移動時間等を削減することができた(働き方改革)。
- ・ 練習当日に学校行事等で参加できない生徒のために、練習をパート毎に2日間に分けたり午前・午後に分けたりして実施した。
- ・ 中学生の技術向上(技術向上による満足度の向上も含む)を図るために、練習施設として使用させていただいた高校の生徒と共に練習する機会を設けた。

○運営上の工夫

※活動場所に中学校など学校施設を利用している場合の校舎・鍵の管理の現状・工夫も含めて記入

- ・ 生徒の確実な出欠確認を行うために、Googleフォームを活用した。
- ・ 移動困難な大型楽器は、練習会場である高校の備品を借用した。
- ・ 合同練習がスムーズに実施できるようにするために、Google classroomやMeetを活用し、前日までに事務局と各顧問間で打合せを行った。

○本事業における実証結果や成果の評価・分析

- ・ 別添アンケート結果のとおり、各質問項目に対する満足度が高いことから、地域移行に向けた実証としては、おおむね成功したと考える。
- ・ 特に、合同練習や合同演奏本番に係る満足度は高く、少人数でしか演奏できなかった課題に対しては、一定の解決が図られたと考える。
- ・ また、今後の合同による活動についての評価も高かったことから、これまでの取組の成果と課題を踏まえた活動を継続していくことは妥当だと考える。

○現状及び継続的な運営に関する課題

- ・ 楽器の運搬を伴うため、顧問の参加が必須になってしまう状況がある。
- ・ 合同練習は必ず同じ場所で行うなど、拠点となる会場や施設を定着させる必要がある。(楽器移動の負担軽減のため)
- ・ 合同練習を行う定例日を設定し、安定した合同練習体制を整える必要がある。
- ・ 施設使用料や指導者への謝金、必要経費など予算を確保することが必要である。
- ・ 以上のような課題を調整するコーディネーターや事務局員及び講師陣の人材確保が困難な状況も考えられる。

○令和6年度以降の学校部活動の地域移行に関する方針・計画

- ・ 次年度は、新体制後(現2年生引退後)に中間市立中間東中学校を拠点とした休日におけるクラブ活動「なかまジュニア吹奏楽クラブ(以下、NJBC)」を継続して実施する予定である。

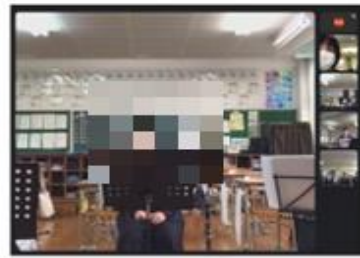
【活動の様子 (写真添付)】



【合同パート練習の様子】



【オンラインによる練習の様子】



【専門家による指導の様子】



【合同演奏会の様子】



【ホール練習の様子】



【演奏会後の様子】

